

内閣総理大臣 安倍 晋三 様

G7伊勢・志摩サミットにおける「女性」「開発」に関するアジェンダでご議論いただきたい事項

公益財団法人プラン・ジャパン

プランは、すべての子どもたちが能力を最大限に発揮できる世界の実現を目指し、世界70カ国で活動を展開する国際NGOです。現在、地域の中でも底辺に置かれがちな女の子の問題に特化して支援を実施するため、Because I am a Girl キャンペーンを展開し、ジェンダー平等と女の子/女性のエンパワーメントを推進しています。

2015年9月に採択された「持続可能な開発目標」(SDGs)では、目標5に「ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女の子のエンパワーメントを行う」が掲げられました。また、アジェンダの前文には、「ジェンダー平等の実現と女性・女の子のエンパワーメントは、すべての目標とターゲットにおける進展において死活的に重要な貢献をするものである」と明記され、他の目標にもジェンダーの視点が分野横断的に含まれています。

G7伊勢・志摩サミットでは、エルマウ・サミットの成果を踏まえ、教育を含む女性のエンパワーメント、自然科学・技術分野における女性の活躍推進などのテーマが取り上げられ、あらゆる分野で女性活躍推進への機運を高める目的で「女性」に関する主要議題が含まれたことを歓迎します。「女性」や「開発」をめぐる様々な課題について包括的に議論する際に、「女の子」も含めた議論を日本政府に主導していただきたく、以下の2点を提案いたします。

### 1. 女子中等教育の推進

質の高い教育は基本的人権であるばかりでなく、ジェンダー平等と女性・女の子のエンパワーメントに欠かせない。世界では思春期の女の子の5人1人が学校に通っておらず、前期中等教育修了率には大きな格差が見られる。質の高い教育を受けた女の子が将来安定した職を得、経済的に自立することで、経済的エンパワーメントが促進され、貧困の負の連鎖を断ち切ることが可能となる。また社会的にも認められ、発言権や地位が向上し、政治的エンパワーメントも促進することが期待される。一方、女の子が中等教育を受けられないことによる経済的損失は、途上国と東欧諸国65カ国で毎年10兆円という試算もある。前期中等教育課程レベルを修了し、その後の職業教育や高等教育への道のりを閉ざさないためにも、途上国の基礎教育支援、特に女の子の前期中等教育支援の強化を重点課題とし、必要な資金コミットメントを行う。

### 2. SDGs5の達成に向けた取り組みの強化

SDGs5には、MDGsには含まれていなかったジェンダー平等と女性のエンパワーメントを達成するために必要不可欠な広範な目標が含まれている。特に女の子のエンパワーメントを阻む以下の課題について再認識し、取り組み強化に向けた議論を主導する。

#### 児童婚の撲滅

女の子の教育を阻む大きな原因として児童婚が挙げられる。国連で定められている子どもの権利条約では18歳未満を子どもと定義しているが、世界では女の子の3人に1人が18歳未満で結婚している。18歳未満での結婚は世界のほとんどの国で禁止されているが、慣習法や社会規範、貧困などによりなかなか無くならないのが現状である。児童婚は教育の機会を奪うだけでなく、心身の健全な成長を阻害する。よって、各国政府が最低婚姻年齢を18歳以上と定め、児童婚を撲滅するための政策を実施できるよう支援を強化する。

#### 学校内外でのジェンダーに基づく暴力の根絶

学校に通う女の子は登下校の途中で男性にからかわれたり、学校の敷地外にあるトイレで危険な目にあったり、よい成績と引き換えに男性教諭から関係を迫られたり、性暴力の被害に遭うケースが後を絶たない。よって、学校内外でのジェンダーに基づく暴力を根絶し、女の子が安心して教育を継続できる環境を確保するための支援を強化する。

以上